

# ボジヤギと私

林鮮玉

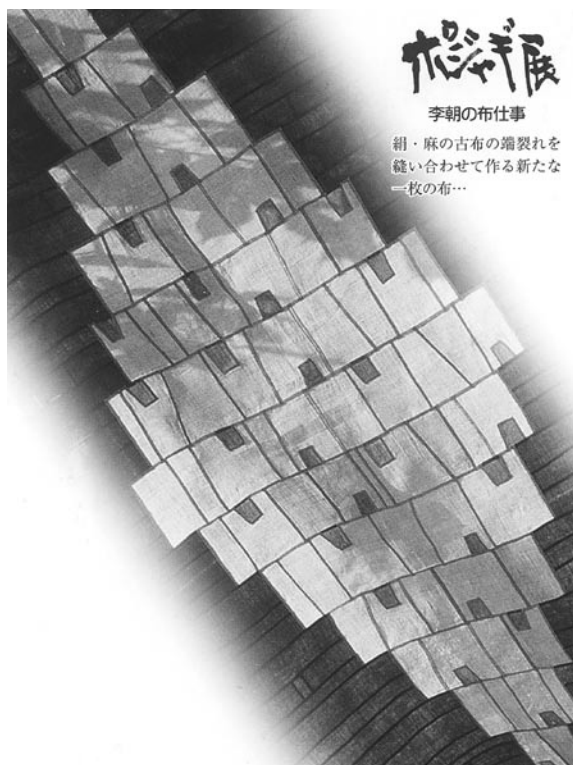
3年ほど前、韓国舞踊の趙寿玉先生から、友人のボジヤギ展を案内する葉書をいただいた。手仕事に興味があった私はさっそく友達と出かけ、そのすばらしさに一目惚れしてしまった。それが今、ボジヤギを習っている島崎先生との出会いだった。先生は、以前は日本のパッチワークをやっていたらしい。しかしご主人の仕事の関係で何年か韓国で暮らすうちにボジヤギを知り、魅せられたということだった。

ボジヤギというのは韓国固有の生活用品である。実生活で容易に手に入る織物を素材として作り、使われて来た。呼び方も方言を含め色いろいろあり、ボ(褌)、ボジヤイ(褌子衣)、ボジヤギ(褌子器)などと呼ばれた。ボジヤギは一時「福」と呼ばれたことがある。「福」は「褌」と発音を通ずるからである。ボジヤギに包まれる物が幸福を象徴するものである場合は、多く「福」と呼ばれた。礼物を包んだ婚礼褌は代表的な例である。刺し子をしてある刺子褌は、昔は赤子が生まれた時に包むのに使った。また食褌は破損しやすい器を函に入れるときに包むために使った。食卓や膳を覆う時に使うものは裏面に油紙が当

てあったそう。私が習っているものはチョガツポといい民褌の代表的な様式のひとつで、使い残しの小布を色とりどりに縫い合わせたものである。これは庶民が廃品活用という暮らしの知恵から作り出したもののようにうだ。

本来捨てられる運命だった切れ端が、洗練された構成美を創り出しているのを見ると深く感心してしまう。自分自身のルーツにもつながる昔の人たちが、一針一針何を考えどんな思いで針を進めていったのだろうとつい考えてしまう。

ボジヤギ教室に通いだしたある日、実家の母に何か要らない布地はないかと電話をした。一週間ほどして小さな箱に入った布が届けられた。中にひとかたまりになった黄ばんだ布地を見つけた。日本の紗のような布地だった。私の祖母が18歳で日本に渡って来た時に、持っていた物だそう。母も捨てられず箆筒の隅にしまっていたという。私の祖母が生きていれば101歳。80年前あるいは100年前の布地なのか？ その布地を見ながら祖母の一生を考えた。この布地で私は何を作れば良いのだろうか。恐ろしくてまだ使えないでいる。



**ボジヤギ展**  
李朝の布仕事  
絹・麻の古布の端裂れを縫い合わせて作る新たな一枚の布...

## 李朝の布仕事

絹・麻の古着の端裂れを縫い合わせて作る新たな一枚の布...

- 島崎昭子 荒井正美 李尚美 林鮮玉 小栗勝子  
久市千代 倉本宜子 黒澤正子 佐藤朋子 辛錦玉  
趙富子 朴貞秀 村島芙美子  
韓国在住特別出展者：李政恵 申東錫

2004 5/27(木) ~ 29(土)  
AM10:30 ~ PM4:00

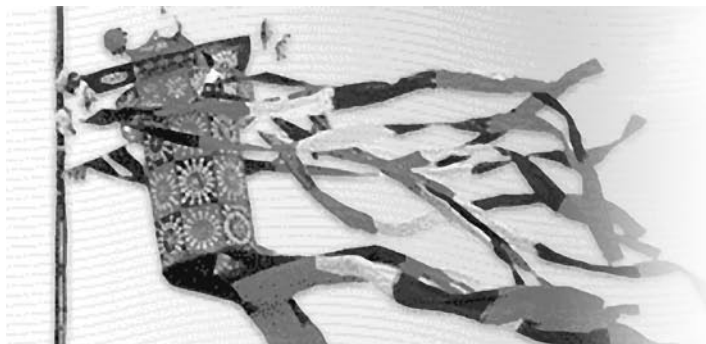
### 三木武夫記念館

渋谷区南平町 18-20  
☎ 03-3463-2600 FAX 03-3477-0945

JR 渋谷駅南口より徒歩 10 分  
渋谷駅南口より東急バス (道玄坂上バス亭下車、1 区間乗車)  
㊦ 田園調布行 ㊧ 大井町行 ㊨ 上町行 ㊩ 二子玉川行

端午舞

# 端午祭



五月五日(日本では「端午の節句」)です。韓国では陰暦の五月五日に祝い「端午祭(タノジエ)」といわれます。旧暦の五月は緑が旺盛に茂り、あらゆる生き物の生命力が非常に充実しています。

今年の旧暦の五月五日は、西暦では6月22日になります。西暦の5月5日の方はといいますと、立夏に当たります。芒種が6月5日です。芒種というのは、芒(のぎ)のある穀物を播(ま)く時期という意味で、田植えをする時期を意味します。また、夏至が6月21日です。夏至の翌日が旧の五月五日です。

日本も韓国も都市部ではお祝いの事は殆どなくなりました。特に伝統の祭りは農業と深く関わっていただけに、都市が栄え、農業人口が減少するにつれ、テレビや映画の中でしか祝う姿を見られなくなっていました。

もともと端午を祝う風習は中国のもので、陰陽五行の考えからは、奇数を陽の数字と捉え、偶数を陰の数字としました。また、奇数の重なりを縁起の良いものと考えました。1月1日(正月)、3月3日(日本では桃の節句)、5月5日(端午)、7月7日(七夕)、9月9日(日本では重陽の節句)と、奇数が重なった日は全てお祝いの日となっています。

端午の端とは、「最初の」という意味であり、午は「五番目」を意味します。ですから端午は「五番目の月」や「五番目の日」を意味しています。五月五日は、五番目が二つ重なっているから、非常に縁起がよいと考えました。しかしそのような日が現代まで続いたのは、単に縁起が良かっただけでなく、季節の変わり目と重なって来たから、という理由の方が大きいように思います。

端午の端とは、「最初の」という意味であり、午は「五番目」を意味します。ですから端午は「五番目の月」や「五番目の日」を意味しています。五月五日は、五番目が二つ重なっているから、非常に縁起がよいと考えました。しかしそのような日が現代まで続いたのは、単に縁起が良かっただけでなく、季節の変わり目と重なって来たから、という理由の方が大きいように思います。

1月1日は冬の終わりであり、3月3日は春を告げます。5月5日は夏の始まり、7月7日は暑さの終わりを告げます。そして9月9日は秋の始まりです。概ねそのような季節の区切りに当たっています。

一説には、中国で屈原が汨羅に身を投げた日が5月5日だったから、その日に法要を営むようになったのがこの日の始まりだ、といわれていますが、真偽のほどは分かりません。

日本では男の子の節句として定着しており、兜を飾り、鯉のぼりを泳がせますが、これは江戸時代に定着した風習です。

菖蒲は、日本では菖蒲湯に使用します。韓国では菖蒲湯は、女性が髪の毛を洗うのに使いました。菖蒲湯で洗うと、髪に艶が出て、柔らかくなったそうです。また、沐浴は五つ時(午前11時〜午後1時)に行いました。そのときから陽気もとても強いと考えたからです。五月五日の五の時です。端午祭で欠かすことの出来ないのが、ブランコ遊びです。これはもっぱら女性の遊びです。もともとは北方遊牧民の遊びでした。韓国も遊牧民の末裔ですから、この遊びを古くから楽しんでいました。李朝時代、両班層は、はしたない遊びと捉えましたが、庶民の間では広く楽しめました。ブランコ前方の棒の上に何か音の出る物を下げ、それを何度蹴飛ばして鳴らしたかで、高さを競い合いました。春香伝という韓国の時代劇では、ブランコをこぐ場面は欠かすことの出来ない名場面です。他の時代劇でも、特に恋愛ものではブランコ遊びの場面が使われます。

地方の端午祭で有名なものに、江陵端午祭があります。1967年に重要無形文化財に指定されました。この祭りでは大関嶺の神様をお連れして、市内の女性の神様と一緒に祀りをします。こうすることで無病息災を祈ります。李朝時代には官吏やムードダン、土地の人など数百名で祭祀を行い、見物客も数万名集まりましたが、最近では昔ほどではないそうです。

地方の端午祭で有名なものに、江陵端午祭があります。1967年に重要無形文化財に指定されました。この祭りでは大関嶺の神様をお連れして、市内の女性の神様と一緒に祀りをします。こうすることで無病息災を祈ります。李朝時代には官吏やムードダン、土地の人など数百名で祭祀を行い、見物客も数万名集まりましたが、最近では昔ほどではないそうです。

地方の端午祭で有名なものに、江陵端午祭があります。1967年に重要無形文化財に指定されました。この祭りでは大関嶺の神様をお連れして、市内の女性の神様と一緒に祀りをします。こうすることで無病息災を祈ります。李朝時代には官吏やムードダン、土地の人など数百名で祭祀を行い、見物客も数万名集まりましたが、最近では昔ほどではないそうです。

(李起昇)

## 掲示板



◎5月31日(月)〜6月4日(金) 平和を愛する芸術家の集い  
於 トウキョウマリノギヤラリー  
出版作品: 書 水墨画 洋画 写真  
陶芸 花 ボジャギ  
S N W N 書民会  
☎ 03 (3901) 3447  
◎6月6日(日) 午後1時  
インドネシア舞踊の祭典  
趙寿玉 出演  
スアラ・バングサ2004  
於 江戸川区タワールホール船堀小ホール  
前売り 2500円  
主催 日本インドネシア家族の会  
☎ 03 (5569) 5288  
◎6月12日(土) 午後2時  
うた芝居「さんねん峠」  
趙寿玉 出演  
於 八尾市文化会館(プリズム小ホール)前売り 2000円  
主催 八尾さんねん峠をみる会  
☎ 0729 (99) 2221  
◎6月28日(月) 午後6時  
古典舞踊と創作舞踊が織り成す、韓国5000年の歴史ススペクタクル「時空を超えて」  
於 東京文化会館大ホール  
主催 韓国伝統文化研究所  
NPO法人ハヌルハウス  
☎ 03 (5996) 9426  
◎天空の舞  
8月15日(日) 午後8時  
前夜祭 於 金蔵正願寺  
8月16日(月) 午後8時  
金蔵万燈会  
趙寿玉 李明姫  
前夜祭のみ2000円  
主催 NPO法人金蔵学校  
☎ 0768 (32) 0316

**趙寿玉舞踊教室**  
新規開講  
5月より毎週火曜日  
午後3時半〜9時  
入門・初級・個人レッスン  
於 李明姫国楽院  
☎ 03 (3369) 8788  
03 (3269) 3258 (趙電子)

# 小さな歩み 大きな一歩

## ハングバルコルム

### 私たちの活動日誌

2004年2月5日に日

暮里サニーホールで行われた「韓舞楽」<sup>（チュムソク）</sup>、3月27日、28日に横浜市西公会堂で行われたBACCANALEにチュムパンのメンバーが参加しました。

「韓舞楽（한무악）」は、社団法人韓国国楽協会日本東京支部の主催で、設立15周年記念公演として開催されたものです。

チュムパンの会からは趙寿玉、李貞恵、趙昌代、崔素榮、趙富子、林鮮玉、丁宣希、加藤多美、尹正美、黄慈恵が出演し、サルプリ舞、杖鼓舞、固城五広大基本舞を踊りました。また、李明姫先生に民謡を習っている者たちは、先生と一緒に民謡を歌いました。

BACCANALEは、舞踊教室



で利用している「スタジオオカンティナ」主催の合同発表会です。様々なジャンルの出演者たちに混ざって、チュムパンの会からは、趙寿玉、李貞恵、丁宣希、曹和仙、尹正美、が「五方舞」<sup>（オパジチュム）</sup>を踊りました。（N）

\* \* \*

昔、困難な日々、私たちの心を支えてくれたのは歌でした。上手な人が歌う詩吟というのはうっとりするほど素晴らしいものです。

音というものには人を感動させる不思議な力があるようです。そんな音に身振りをつけて「舞う」という、感動的で難しい体験をしたのは今回が初めてです。

韓舞楽（한무악）の舞台も、カンティナの発表会の舞台も、観客、舞台関係者、演奏者、舞う人、参加するすべての人たちのそれぞれの思いや気持ちは違ふけれど、一筋の幸せを感じ取れば、それもまた成功と見て良いのかもしれない。

今回の舞台で舞うことの難しさ、ちよつと気を緩めると、自分がダメになってしまいうるような自分の弱さを感じました。

でもチュムの魅力は今までの作品の何倍も感じました。

苦悩と喜びは紙一重です。

（李貞恵）

## 会報「チュムパン」 生まれて一年 感謝をこめて

ふと気がつく、早一年。100人以上の方々のカンパや第4号をお手元にお届けすることになりました。購読料に支えられて第4号の発行に至りましたのは、ひとえに

「感謝」です。思えば一年前、「チュムパンって？」ということから始まりました。

趙寿玉さんと生徒さんたちを中心に、「決まりきった形は無いけれど、何かを生み出さずにはいられない様なエネルギーに

満ち溢れているところ。むしろそんな殻を破って、舞が湧き上がる場所。踊り手だろうが、踊り手ではないだろうが、踊りが好きな人たちが自由に一緒に楽しむところ。それで良かったら、どなたでもどうぞ。好きな人、よつといで」という自分たちの世界をもつといういろいろな方々から「会報チュムパン」は生まれました。

最初はまったくの暗中模索でした。「いったい読んで下さる人がいるのだろうか?」「一号だけで終わってしまうかも」そのような心配をよそに、

感謝を込めて

編集長

西方恭子